

日本語用論学会第26回大会プログラム（速報版）

※一部変更される可能性もあります。追って公開される最終版を必ずご確認ください。

【1日目】				
	Room 1 (AW404)	Room 2 (AW403)	Room 3 (AW402)	Room 4 (AC531)
10:20-12:00	【特別講義 (Special Lecture)】	【ワークショップ1】 オーガナイザー：岡本 雅史（立命館大学）	【ワークショップ2】 オーガナイザー：小野 正樹（筑波大学）	
	CHEN Xinren (Nanjing University) “Relative Effectiveness of Deductive and Explicit-Inductive Pragmatic Instruction: New Evidence from a Case Study.”	会話における発話のアドレス性	日本語配慮表現研究からみた日本語教育の課題と展望	
12:00-13:00	Lunch Break			
13:00-13:35	SUZUKI Toshihiko (Waseda University)・SATO Ami (Nagoya University of Commerce & Business): The Recent Trend in the Use of English Vocatives as Familiarizers: From the Data Collected in London	梁 勝奎 (名古屋大学[院])・畑 和樹 (東京都市大学)・山本 真理 (関西学院大学): 依頼の合理性を主張する試み：発話を引用するやり方の事例から	昂 燕妮 (名古屋大学[院]): ほめる談話におけるフェイェスバランスの調整—日本語と中国語の初対面・友人同士の会話をもとに—	徳淵 樹 (京都大学[院]): アリεύジョンに関する認知言語学的な分析：構文文法と概念ブレンディング理論の接点
13:40-14:15	KROO Judit (Arizona State University): What is a dialect? What is a standard?: Shifting indexicality and persistent ideological norms	佐川 寛知 (神戸大学[院]): 引用と話法の境界線になる「情報源への遡及可能性」について	滝浦 真人 (放送大学)・肖 婷婷 (大連外国語大学): チャット・コマースに見る“遠近両用”ストラテヂーと東アジアの語用論—中国語の対人距離感にいま起こっていること—	丁 昊天 (名古屋大学[院]): メタファー表現の産出とコンテクスト
14:25-15:00	MATSUI Kimiyo (The University of Sydney [GS]): Grammaticalization in the use of sasete itadaku by celebrities on a TV talk-show: Focusing on the development of subjectivity	西山 遥 (慶應義塾大学[院]): 言い換えの機能と効果—ディベートにおける意味構築—	許 明子 (名古屋大学)・呉 凌波 (名古屋大学[院]): 日韓初対面同士の会話に見られる話題選択と会話展開について—3カ月間の縦断調査の分析を通じて—	木原 恵美子 (神戸大学): 中上級英語学習者による会話における響鳴
15:05-15:40	ALLEN Todd (Kansai University)・LIU Xiangdong (Western Sydney University): Exploring Sociopragmatic Features of Japanese Storytelling: Instances from an Izakaya	呉 凌波 (名古屋大学[院]): 話題転換における話題開始表現の日中比較—話題間関連性の観点から—	丁 仁京 (佐賀女子短期大学)・滝浦 真人 (放送大学)・林 炫情 (山口県立大学)・玉岡 賀津雄 (名古屋大学): 韓国語の行為指示における新しい敬意表現-silgeyoの容認度の検討	角出 凱紀 (京都大学[院]): カテゴリー化から見た「第2のX」
(10分休憩)	会員総会・基調講演会場@AW302			
15:50-16:10	会員総会 General Meeting of Members			
16:15-17:45	基調講演 Plenary Lecture			
	野田尚史 (日本大学) 「日本語学習者による日本語の理解過程—理解困難点と推測技術—」			
18:00～	懇親会			

【2日目】

	Room 1 (@AW404)	Room 2 (@AW403)	Room 3 (@AW402)	Room 4 (@AE351)
9:00-9:35	塩川 康子 (東京大学[院]): LINE画像広告に見る行為遂行的発話としてのスル系誘導表現とその広告コミュニケーション効果	石川 和佳 (法政大学[非]): 結果焦点機能から見る日本語無生物主語構文: 語用論的に動機づけられる構文としての位置づけ	福本 広光 (大阪大学[院]): 「ディスコース・ストラテジー」としての分離不定詞 一米国一般教書演説に含まれる用例の分析を通してー	塩田 英子 (龍谷大学): 擬態語は何を擬するのか: メタ言語表示による創造性をめぐって
9:40-10:15	黒田 一平 (龍谷大学ほか[非])・西村 綾夏 (フリー): 看板を「理解」するとは: 文字・表記理解に対する語用論的アプローチ	田村 心 (筑波大学[院]): 感情表出を表す2タイプの命令文に関する構文文法的分析 一構文における語用論的内容の前景化に着目してー	鈴木 大介 (大阪大学): 発話内容を緩和する標識としての副詞perhaps	ポスター発表@AC533 [10:00-11:30] [* 奇数番号 10:00-10:45/偶数番号 10:45-11:30] ①谷口 龍子 (東京外国語大学)・中村 栞 (上海外国語大学)・梅田 里菜 (東京外国語大学[院]): 日本語の自然会話における1・2人称主語の言語化の要因 一発話機能と主語の意味機能を手がかりにー ②宮永 愛子 (山口大学): 三者会話における発話の共同構築 一日本語とフランス語の比較を通してー ③張 琴琴 (北海道大学[院]): 日本語教育における概数数量詞の形態音韻論 ④鈴木 梓 (福井大学): 日本語教育における現代語指導について 一SNSでの「なにげに」の例からー ⑤楊 世沢 (京都大学[院]): 中国語“给”に関する語用論的考察 ⑥楊 留 (筑波大学[院]): 語用的装置としての声は何を喚起するか 一声優にまつわるメディア・イデオロギーの包括的モデルの構築を目指してー
(10分休憩)				
10:25-11:00	平川 裕己 (神戸市外国語大学[非]): 空間の構造化・動物の序列化: 王子動物園の園内パンフレットの批判的談話分析	張 力丹 (北海道大学[院]): 語用論的な観点からみる複合形式の「ことになっている」	松山 加奈子 (奈良女子大学[院]): ジェネラルエクステンダーor somethingとor anythingの語用論的機能 一someとanyの意味特性から ー	
11:05-11:40	西村 綾夏 (フリー): 記号の意味拡大への語用論的アプローチ: 「命がけ♡」のハートマークは何を表すのか	森 貞 (福井工業高等専門学校): 「Vされ返す」の正体 ー「Vし返される」を阻止する語用論的要因ー	富岡 侑央 (京都大学[院]): 道具目的語構文から考えるヲ格の意味と機能	
11:40-13:10	Lunch Break			語用論茶寮@AE351 進行: 小松原 哲太
	シンポジウム・表彰式・閉会式会場@AB103			
	シンポジウム「言語コミュニケーション能力の「評価」をめぐって」Symposium			
13:10-15:40	[第1発表] 李 在鎬 (早稲田大学)「日本語教育における評価の現状と課題」 [第2発表] 木村 修平 (立命館大学)「プロジェクト型英語教育における評価の難しさと可能性」 [第3発表] 大井 学 (金沢大学)「CCC-2とTOPJC: 臨牀的な目的のための語用能力発達評価法」			
15:40-16:00	大会発表賞表彰式 Best Presentaion Award Ceremony 閉会式 Closing Ceremony			